

国外実態調査報告書

テーマ : イギリス実態調査 : (ロンドン、ブライトン)
ゼミ名 : 福西 由実子 ゼミ
調査日 : 2024年2月1日(木) ~ 2月9日(金)
調査先 : 【イギリス】Royal Observatory, Greenwich, British Museum 他
授業科目名 : 国際教養演習 I・II
参加学生数 : 3名(3年生)、3名(4年生)

調査の趣旨(目的)

国際教養演習では、1年間を通じて現代イギリス社会の諸相について政治・経済・文化面から多角的に学び、ゼミ生は自分の関心を元にゼミ論文を執筆した。今回の実態調査では、全員で「イギリスにおけるレジャーの誕生とその発展」というテーマを設定し、その〈実態〉を直に確認する。ロンドンでは大英博物館、自然史博物館にてイギリス史と博物学・考古学の関係を、グリニッジ天文台、海事博物館にて大航海時代以降のイギリスの海事と天文学との関係を押さえる。その後バースとブライトンという、歴史的に重要な保養所・海岸リゾート地を訪れ、18世紀以降のイギリスのレジャーの変遷を辿る。

調査結果

今回の実態調査の時期と、イギリス全土の鉄道ストライキ(地下鉄はのぞく)が重なってしまったため、ロンドン以外の都市を電車で訪れることができるのが滞在中1日のみとなってしまった。ゼミ生たちと相談した結果、実態調査の行程を変更し、バース訪問は諦め、代わりにブライトンに加えてイーストボーンを訪れることとした。

イーストボーン、ブライトンでは、19世紀のロンドンからの鉄道開通に伴い、海浜リゾートとして繁栄してきた様を比較調査した。イーストボーンからサウス・ダウズ国立公園の一角をなすセブン・シスターズを経て、ブライトンへ。ブライトンはLGBTコミュニティの多い街としても知られ、しばしば「イギリスにおける同性愛者の首都」と呼ばれる。LGBTを援助する団体や、関連するショップ、バー、ナイトクラブなどが数多くある。ブライトン博物館では、その展示において、LGBTがブライトン・カルチャーに果たしてきた役割について特に充実した展示を行なっていることなどが見てとれた。

ロンドン、グリニッジでは予定通り調査を進めることができた。実際に現地を訪れてみると、ゼミ生たちは、ロンドン大火ののち、建築面でロンドンの都市開発を担ったクリストファー・レン、そしてトラファルガー海戦の「英雄」ネルソン提督という2人の人物に関心を持ったようで、レン作品であるグリニッジ天文台、旧王立海軍大学、ロンドン大火記念塔、セントポール大聖堂を続けて訪れつつ、ネルソン提督(そしてナポレオン)がどのようにイギリスで表象されてきたかを、レンの建築やターナーの絵画などとリンクさせながら確認している姿が印象的であった。

福西由実子ゼミ 海外実態調査 (2023 年度)

自然史博物館



グリニッジ天文台



「コックニーの定番料理」パイ&マッシュでランチ

